

恵那市 笠周地域木の駅実行委員会

# 県民協働による未利用材の搬出促進事業

## 間伐の輪、地域を活性化

山の間伐を通して、森だけでなく地域全体まで元気にしよう。

恵那市中野方町では、間伐活動が地域活性化に結びつく「木の駅」システムの定着化が進んでいる。同システムは、価格が安すぎて伐採がままならない木材(C材)を、県や市の補助金で上乗せした地域通貨「モリ券」で買い取る仕組み。県からの補助金には「清流の国ぎふ森林・環境税」が充てられている。山主の間伐意欲を刺激すると同時に、地元商店の活性化にもつながる「石二鳥の試みだ」。

### 地域通貨と交換

「休みの日にゴルフ行くような気分だよ。チェーンソー使って、大きな木を狙い通りにズシーンと切り倒す。これがかもう気分爽快」

「笠周地域木の駅実行委員会」の鈴木今衛代表(64)は同町には間伐の面白さをそう話す。電気工事業を営む傍ら、暇をみて軽トラックで山へ向かう。気軽さが木の駅の売りだ。現在木の駅には近隣2町を合わせた計72世帯が

登録し、昨年度は27世帯が計389トンを山から運び出した。

2009年、高知県のNPO法人「土佐の森救援隊」をモデルに、恵那市のNPO法人「夕立山森林塾」の協力で発足。農家が野菜を道の駅で販売するように、間伐材も気軽に売ればとの願いを込めて「木の駅」と名付けられた。木の駅は持続的な間伐を目指し、参加者の負担を極力軽減している。例えば、受け入れる丸太の長さは、軽トラックに載せやすい60〜210センチと幅を持たせ、重い生木のままの検量も認めている。集積場に集められた木材は、1トンあたり木材チップ価格3千円に補助金3千円が上乗せされ、計6千円分のモリ



「太い木を切り倒した時の気分は最高」と語る鈴木今衛代表=恵那市中野方町の間伐材集積場

券と交換。モリ券は町内のスーパーや理容店、ガソリンスタンドなど19店舗で商品券と同じように使える。「1トン6千円。現金に換算すれば見合う仕事じゃない。それがモリ券だと不思議と得した気分になれる」と鈴木さん。「先祖代々の山をきれいにしたいという思いは誰にもある。モリ券がその一歩を踏み出すきっかけになった」と振り返る。山主でなくとも間伐に参加できるのも、木の駅の特長。鈴木さんが代表を務めるボランティア団体「袖(そま)組」は、切り出した木材の引き取りを条件に間伐を無償で請け負う。山の保全に協力したいと各務原や中津川市から駆けつけるメンバーもいる。木の



間伐作業に汗を流す袖組のメンバー=昨年11月、恵那市中野方町

### 緑のダムで防災

間伐が行き届いた山は、大きく育った木が地中深く根を張り、土砂災害や洪水被害を防ぐ。鈴木さんは「個人の山という意識を捨てて、みんなを守る緑のダムにしなければならぬ」と力を込める。木の駅が4年間かけて切り出した間伐材は計約1200トン。それでも間伐が完了した山は全体の1%にも満たない。木の駅の果てしない挑戦は続く。

清流の国ぎふ森林・環境税を活用した事業の紹介【7】 県民協働による未利用材の搬出促進事業

### ～公共施設等における県産材の利用促進～ (木質バイオマス利用関係)

間伐などにより伐採された樹木のうち、未利用のまま林地に残されている間伐材や木の枝などを、木質バイオマス資源として有効活用を図り、環境にやさしい低炭素・循環型社会の実現を目指すため、地域住民と市町村が一体となって取り組む未利用材の搬出事業を進めています。

平成24年度実績
実施箇所 / 4市町・5地域 (大垣市、揖斐川町、郡上市、恵那市)
搬出実績量 / 512.3t
平成25年度計画
実施箇所 / 4市町・7地域 (大垣市、揖斐川町、郡上市、恵那市)
搬出計画量 / 1,450t



この他、公共施設の木質ペレットボイラー、ペレットストーブ、薪ストーブ等の導入を進めています。